

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第159号



ガードレールに稲藁を天日干しする (2022年9月 三重県いなべ市)

天日干しの風景

フリー編集者 佐宗 圭子

三重県いなべ市の田舎道を歩いていたら、写真の光景に出会った。「はさがけ」にガードレールを利用してしている!と思ったら、粃の部分はなかったため、脱穀した後の稲藁を畑などで利用するために干しているようだ。

少しずつ都市化の波が広がるこの地にも、まだまだ田んぼはたくさんある。しかし、稲刈りはコンバインで、稲の刈り取りと、粃の脱穀、稲藁の裁断までが、一連の流れであるという間に行える。そのため、稲刈り後には長い稲藁はのこらない。

今ではではあまり「はさがけ」を見ることができないが、全国的には、まだ元気にのこっている地域もある。はさ(稲架)掛けは、「はざかけ」「いなぎほし」「かけほし」「おだかけ」など地方によって色々な呼び方があるようだ。

(次ページへ)

都市生活者からすると、田んぼの「はさがけ」の風景はいなあと思ったりするが、稲架を組んだり、稲を掛けたりするのは一人ではむずかしい力仕事である。

一方で、やはり天日干しで時間をかけた方が、乾燥機で乾かすよりも水分の抜け具合がよく、米がおいしいという説もある。「はさがけ米」と銘打って、主流の米と差別化したり、はさがけの美しさに惚れ込んで、より美しい稲架の組み方を研究する若い農家も現れている。やはり、天日には、なかなか機械では代替できない力がある。先の写真の「なんちゃって」はさがけも、日を浴びた稲藁は何だかとても幸せそうに見えるのだ。



電車の窓から見かけた本物の「はさがけ」
(2019年9月 岐阜県高山市近く)

雑記 ごまめの歯ざり

TOUTEN BOOKSTORE

昨年1月に、個人の新刊本屋を開業した。出版業界はスマホの普及や電子書籍・オンラインショップの台頭もあり斜陽産業だ。そんな業界の川下である本屋業界は閉店のニュースの方が多けれど、だからこそ、本屋という場所がなくなつてはいけなと思った。本屋を開業して、「なぜ本屋が必要なのか」という問いに日々ぶつかることになった。感覚的な部分が多くて、未だに「これだ」という言葉が見つからないが、お客さんが本棚の前で本を選んでいき、本を手取る瞬間を想像しながら本を注文しているとき、実際に本を手にとつてレジに来るとき、その答えの近くまできている気がする。

昔働いていた会社の上司が口にした「本は出会った時が新刊」という言葉はずっと心に残っている。本には賞味期限がなく、何年前のものであつても新しく感じるものもある。

例えば「自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ」という言葉。私の好きな詩人・茨木のり子の詩の一節だが、こういった言葉の数々は今もなお、存在感を持って本棚の中に在り続ける。あらゆる時代の人々の物語や思想が集まる本屋という存在は、時空の歪みがあるのではないかと思う時がある。日常の慌ただしさを忘れさせ、気持ちを和らげてくれる。本棚を見つめる時間は、自分だけの時間だ。

店名にある「TOUTEN」読点「は文章を整理したり、息つきしたり、時にはアクセントとして使われる。これはまるで、生活の中の本屋のようだと思った。なぜ本屋が必要なのかはまだうまく説明できないけれど、当店に来てくれるお客さんにとって、少しでも大切だと思える場所になれたらうれしいと思う。

* ホームページ <https://touten-bookstore.net/>

(会報協力者 古賀 詩穂子)

新施設建設に向けて

エゼル福祉会 評議員

「ソラ」の会 理事

宮川 優子

(3)

9月29日に親、職員、法人役員が集まり、「暮らしの場」準備会が行われました。最初は大川理事長より暮らしの場を建設することが理事会で決定されたと報告がありました。中小田井地区の建て替えか、来年3月までに近隣で広い土地が確保できた場合は移転することも選択肢にして来年度後半には着工する。また、具体的な施設については障害の重い人の自立生活を進めるにはグループホームの形態は難しく、ワンルームや2LDKのバリアフリールームでシェアハウスによる自立生活の実現を目指す。また、人材確保（職員）の難しさが年々深刻になっているため建物が完成しても一斉にスタートできないことが説明されました。

その後、参加者がそれぞれ自由に意見を述べました。親からはわが子の自立生活の見通しに対する期待と不安が、職員からは人材不足の中で自立生活を引き受ける不安が多いように思えました。ただ、暮らしの場の建設という同じ目標に向かっていくことは確認されました。これから実現に向けては段階ごとに課題を共有し、議論を深めていく必要があります。興味のある方は12月22日（木曜日）に予定されている次回の会議にご参加ください。

エゼル福祉会に最も深刻なのは質の良い介護のできる人材の確保が難しいことです。セルフコーディネートで自立生活ができる人であっても「風邪をひいて急に行けなくなった」という連絡が入れば、その人の代わりを探すのは大変です。エゼル福祉会が本人に代わってコーディネートすることは、複数の利用者と複数のヘルパーのマッチングをして難解なパズルを完成させるような作業になります。特にコロナが蔓延した時期には事前の予定が当日の朝に変更になることが

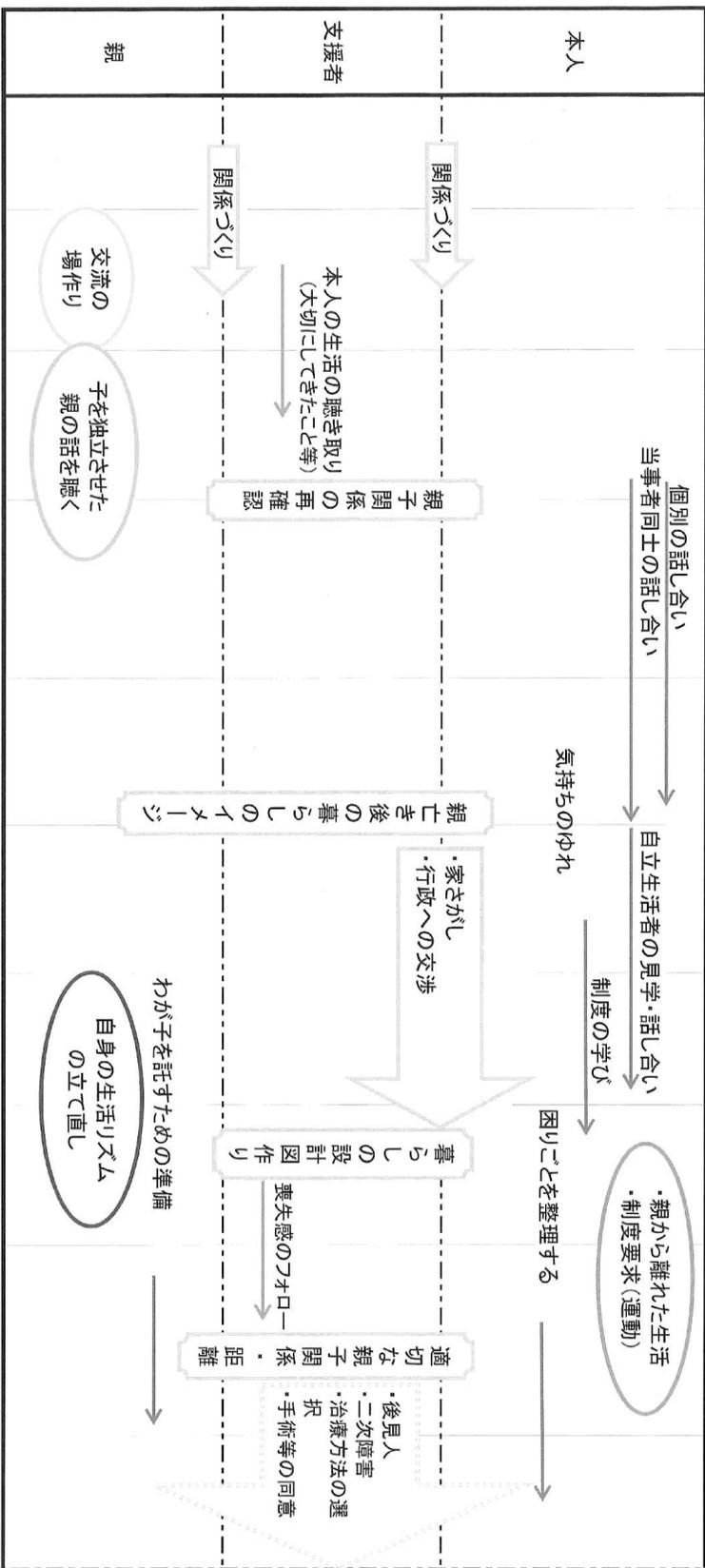
常態化し、薄氷を踏む思いの毎日だったと察します。

さらに自立生活を引き受ける以上は、ストレスで心身に不調をきたすようなことや「家に帰りたい」と泣いてしまうような状況を作らないように丁寧な準備をしたい。そのためには建物が完成してすぐに入居を焦らず、時間をかけてそれぞれの自立生活を組み立てたいと考えます。

障害者は家族と暮らし、それが無理になつたら入所施設に行くのが当たり前だった時代に「障害の重い人でも自立生活ができる！」レスパイト活動（一時預かり）を通して確信したのがエゼル福祉会の原点です。コミュニケーションが難しい人であっても適切な支援があれば自立生活が可能で、障害が軽い人であっても適切な支援が受けられなければ自立生活にはなじみません。障害の軽重ではなく、きめ細やかな支援体制を構築できればスムーズな自立生活への移行ができるのです。

(1) 自立プログラム一覧表

段階	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
本人目標	介助者との関係づくり			生活作り	具体的な生活のイメージづくり			その人らしい暮らしの組み立て	自分を見つめる	
テーマ	関係づくり	楽しみをつくる 拡げる	1～2日の過ごし方 を考える	本人のイメージする 生活の体験	生活リズムの 組み立て・獲得	自信をつける 独立心をつくる	生活の選択 ・準備	生活の中身づくり	他者との関係を感じ ながら、よりよく生きる	下降の発達
利用するサービス	外出 ショートステイ	外出 ショートステイ (回数増)	ショートステイ 不定期(週1～2回)	ショートステイ 中期(週2～3日泊)	ショートステイ 長期(週3～4泊)	ショートステイ 長期(週4～5泊)	ショートステイ 居宅介護	居宅介護 ケアホーム	居宅介護 ケアホーム	居宅介護
適年齢	青年期			中年期			壮年期			



(2) 図解自立プログラム

テーマ

到達点

支援者の大切にする事

到達点に達するために、本人と支援者が行う具体的な方法

第九段階 より良く生きる

自分らしい人生を考える

第八段階 生活の中身づくり

個々の確立ができる

第七段階 生活の選択・準備

自分並びに他者を認められ

決断したことに自覚と責任をもてる

生活全般の組み立てができる(大きな選択)
独立心をつける

第六段階 生活の決断

他者との距離をコントロールできる

生活の中で工夫ができる

自分(我や業)を出し、気持ちを表現する
信頼できる介助者をつくる

第五段階 生活リズムの組み立て

「やっていける」という共通性を持つ

日常生活に必要な事柄を知る
介助者と家族の違いを知る

第四段階 本人がイメージする生活の体験

やりたいことを表現できる

親から離れて、
楽しむことができる

第三段階 1～2日の過ごし方を考える

選択できる

新たな人との
つながりを持つ

第二段階 楽しみをつくる・拡げる

家族以外の人と
過ごすことに慣れる



第一段階 関係づくり

- ・正しい知識を学ぶ(カローリ・葉等)
- ・健康管理に気をつける
- ・不安や迷いにパニックよく付き合う
- ・社会や人との拡がりをつくる

- ・構造的・中介(折り返し)に配慮する
- ・存在を認めて評価する
- ・話し合いの場(当事者同士)

- ・信頼できる軸となる職員を作る
- ・通所・施設との連携の調整
- ・本人の経験値から出る知恵を見つける

- ・日常生活の困り事に対して助言する
- ・生活の中でのこだわりどころを察す
- ・生活につながる経験を増やす
- ・本人からの発信を持つ

- ・本人の経験を増やすために親との調整をする
- ・失敗は失敗として経験できるようにする
- ・普段とは、違う過ごし方を経験する
- ・やりたいことを最大限できるように一緒に考え工夫する

- ・経験の中で選択を尊重
- ・本人に同意観念を持たない
- ・楽しめるような工夫をする
- ・表情・行動・変化に気づく
- ・相手のペースに合わせる
- ・必要な態度で接する
- ・身の安全を守る

- ・新しい経験を増やす
- ・出合いの機会をつくる

- ・自分なりのルールを作り、ヘルパーに指示をする
- ・迷った時はとりあえず、行なう
- ・具体的な将来設計をする
- ・周囲との折り返しをつける
- ・定期的な振り返り
- ・生活リズム・サイクルの把握

- ・パーソナルスペースを考える
- ・限界を知り、一緒に解決案を考える
- ・失敗しても、それに基づいて修正していく
- ・お互いの感情を出し合い、整理する(本人と支援者)
- ・やりくりをする(お金、食材、時間等)

- ・生活に必要な日用品を買う
- ・困るなにかについても、先回りの支援をしない
- ・好きそうな家事を一緒にする

- ・疲れやストレスを知る
- ・興味のあることへの後押しを行う
- ・好きな時に好きなこととする
- ・家でやれなかったこと、やりたかったことを行なってみる
- ・他人から刺激を受ける

- ・場所・企画・介助者が変わっても選択できる経験を増やす
- ・次回の利用へ期待の持てる充実した一日を過ごす
- ・介助者からの提案を行う
- ・行なう期から否定をしない

- ・介助者の固定
- ・利用後の気持ちを取り返る
- ・本人が知っている生活パターンで過ごす
- ・よく知っている人と一緒に行動する
- ・家の過ごし方を真似る
- ・本人をよく知る
- ・「いやいや」のサインや不安を知る

これら障害の重い人たちの生活を必死に支えた経験をまとめたものが「当事者参加の自立を考える〜私たち抜きに私たちのことを決めないで〜」という援助者のための障害者自立生活訓練マニュアルです。ちょうど10年前に医療福祉機構の助成の下、コンビニの会発足当時から助言を頂いた大島正彦先生の指導を受けて作成した本格的な冊子です。新施設建設にあたり、皆さんにぜひ知ってほしい内容が載っています。今号でマニュアルより一部抜粋し転載します。

(4～5ページ参照)

今回の会議には当事者は残念ながら参加していません。あらためて当事者を中心に将来の自立生活を組み立てることを第一にして暮らしの場を築こうと考えています。



ありがとうございました

2022年10月21日にあいち心身障害者小規模授産所を支援する会の会長様、伊藤園の社員様がVOLLOにお越しになり、寄付金贈呈式を行いました。

「あいち心身障害者小規模授産所を支援する会」会長の新谷様は、20数年前のコンビニの会誕生の頃からの大川理事長の事をよくご存じて、その頃のお話をしてくださいました。

自動販売機を設置した収益でご寄付をいただきました。平成14年、令和3年にも同様に頂戴しており今回が3回目となります。

また、自動販売機の協力企業である(株)伊藤園の社員様もお越しになり、お茶1ケースを贈呈してくださいました。

あいち心身障害者小規模授産所を支援する会様、(株)伊藤園様、誠にありがとうございました。

**寄付金5万円
ありがとうございます！**



**伊藤園様から
お茶1ケースいただきました**



7月18日（月）通所部で祝日開所のイベントとしてピザ作りを行いました。その時に、ボランティアでお手伝いに来てくれていたパート職員の息子さんが、この時の体験を作文に書かれました。作文のテーマは「人権」。夏休みの宿題として出されたものだそうです。現役中学生の素直な視点で綴られた文章に、職員も仲間も新たな気付きとパワーをいただくことが出来た素敵な作文でしたので、掲載の許可をいただき、ご紹介させていただきます。

（通所部 W I L L 現場総合主任 大森 直子）



あたりまえの日常

名古屋市立平田中学校 三年

桐澤 旭

ぼくは先日、障害者の人達と、一緒に過ごす機会に恵まれました。母が勤めている家の近くにある福祉施設のイベントです。ピザを作る体験があり、ぼくはそれに参加しました。最初はどのような感じなのか、どのように接すればいいのか不安だったけど、施設に入ったときに明るい声が聞こえてきました。みていたらとても開放的で、「あれっ？」と、一瞬職員の人か、障害者の人か分からなくなるほど自由な感じがしました。もつと堅苦しくて、ピシッとした感じかなと思っていましたが、

想像以上に楽しそうでした。もちろん職員さんはやるのがたくさんあって大変そうだったけど、何より職員さん同士で楽しそうに会話をしたり、利用者さんと話をしていたので、とても充実している空間だと感じました。ぼくも実際に、自己紹介したり、障害者の人達と話をしたりすることができました。その障害者の人達は、それぞれ違ってずっと職員さんと話している人や、一人でじっとしている人、ずっと歩いている人など、ぼくはこれを個性豊かだと感じました。ぼく自身もみんなより個性が強い方だと思ってるので、共感できるかもしれません。個性にもいろんな種類があるんだなあと思いました。利用者さん本人達がどう思っているかは分からないけど、何も無い家でずっと過ご

しているよりは、いろんな人がいてにぎやかなところにいた方が、ずっと楽しいと思います。客観的にみても楽しそうだなあと感じました。

ピザ作りは、作業場のようなところで利用者さんと職員さんが数人ずつに分かれて、グループでやりました。ぼくは母と一緒に二人の利用者さんとピザを作りました。作り方は職員さんが、分かりやすく絵で、ホワイトボードに書いてありました。利用者さんは何回も作っているらしく、慣れた感じでやっていました。できないところは職員さんが手伝ったり、途中で席を立ててどこかへいってしまったても、「やるよー」と声をかけて、一緒に作っていました。強制などどこにも

もなく、一人一人が自分のペースで、自由で作っていました。このようなイベントは祝日などに定期的に行うそうで、他にもパン作りやお菓子作り、ゲーム大会などがあるそうです。

ぼくが一番驚いたのが、利用者さんが、毎日働いているということです。例えば、菓子の製造・販売 軽作業（ねじしめ、シール貼り、ふたしめ）など、たくさん仕事をしているそうです。それぞれに好みがあるそうで、やりたくないときは一切やらないなど、仕事においても強制することがないのは、良いことだと感じました。このように仕事をする目的は、「障害のある人が地域の一員として自立した生活ができるようにするため」だそう

です。このようなことは想像していませんでした。確かに障害を理由に仕事ができないのは、とても不公平だと思うし、仕事をして、自分の力で生きていくというのが基本的な権利だと思うので、そのような、人として当たり前のことを、たくさんの人に囲まれながらできるのは、人権が守られていると思います。障害のある人達も毎日仕事をしている事は、体験や見学などの機会がないと知ることが難しいと思うので、ぜひ他の人たちにも知ってもらいたいです。

ぼくの母が福祉施設で働くようになったきっかけの一つが、母の友人に子どもが生まれたけれど、その子が障害をもっていたからです。その子は生まれつき片目が見えなくて

義眼をつけています。また、三才になるけど上手に歩くことができません。そのようなことがあると身近にいる人も影響を受けるのだと思います。ぼくもそのことを聞いたとき、びっくりしました。それと同時に、正しい知識を身につけて、少しでも支えてあげられたらなという気持ちになりました。周りの人達の関わりが障害者の人自身、その家族の一番の支えになるとぼくは思います。

今回、障害のある人と関わったことは初めてではありません。小学生のとき、同じ学年に、知的障害の子がいました。保育園も一緒に仲もよかったけど、まだ小さかったから、障害がどんなものなのかよく分かりませんでした。他の子はそこで終わってしまうこと

が多いと思うけど、ぼくは今回の経験をして新たに学ぶことができて、本当によかったと思います。なぜなら、他人事ではないからです。身近に障害のある子どもがいるし、将来自分の子がそうであっても何らおかしくないとと思うからです。もしそうなったときは、周りの人達の支えや理解が必要なんだなとつくづく感じました。まだ分からないことや、知りたいことがたくさんあります。この環境にいるからこそ改めて、「障害」ということについて自分の考えや知識を深めていきたいです。そして、その考えを周りの人たちと共有することができたら、自分も成長できると思います。



色々なトッピングをして楽しい♪



利用者さんとピザ作り(左がぼくです)



《活動状況》

9月

- 1日 福祉コンサート観賞会（通所活動）
- 1～8日 名古屋音大生ボランティア活動
- 4日 西区総合防災訓練（佐藤・久野・大西）
- 9日 社協 障害福祉制度研修（大森直）
- 16日 連絡調整会議
- 16日 きょうされん運営委員会
- 21日 社協 強度行動障害研修（佐藤）
- 22日 会報発送
- 22日 生活支援部主任会議
- 24日 通所部ケースワーク会議
- 29日 親の会
- 28日 通所部主任会議
- 30日 防災訓練（WILL）

10月

- 5日 会報会議
- 7日 きょうされん役員会（大森直）
- 12日 山田小学校 校外学習 WILL訪問
- 14日 社協 感染症対策研修（久野・栗本）
- 19日 連絡調整会議
- 21日 V O L O 寄付贈呈式
- 21日 日本福祉大学渡辺先生V O L O 来所
- 26日 社協 薬学基礎知識研修（高橋）
- 26日 インフルエンザ予防接種
- 26日 同朋大学講義参加（溝口・山崎）
- 27日 親の会
- 28日 通所部主任会議



ストレスコーピングについて



誰でも「〇〇になったらどうしよう」と不安になったりすることがあると思います。不安が続くとストレスになり、心身の健康に影響を及ぼしてしまいますので、自分なりに何とか対処する方法を身につけておくことが大切です。

「〇〇すれば大丈夫」と、自分でコントロールできる事を見つけておくことが大切です。

思っていることを誰かに話すことで気持ちを整理する・周囲にアドバイスを求める・気分転換やリラクゼーションをするなど、これらの方法を

「ストレスコーピング」と言います。睡眠・食事・適度な運動も取り入れてストレスを軽くしていきましょう。



事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

9月～10月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

トクメイ 船張真喜

塩澤英幸 内田和宏

松本孝子

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

牧野和紀

(WILL)

浅井宏紀 大飼佑輝

(VOLO)

久保昂太朗 塩澤しのか

曾我美保

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 辻本道子

石原まち 鈴木千春 寺西 剛

土田京加 榊原さち 田村淳仁

東原光江 西川昇吾 清水柚衣

大野香織 後藤 楓 桐澤 潮

鈴木悠太 小林愛恵 川口柚衣

篠田倫子 山本 愛 渡部陽妃

松井暖実 近藤友紀子

玉那覇詠洸 酒井まみ子 長谷川美緒

平林千聖都 山下茉綺聖 榊原つぐみ

★ 会報発送ボランティア

半田素子 佐藤美紀子

吉田嘉子 藤田ますえ

丹羽正子 渡辺世津子



VOLO・WILL 祝日開所イベント

ジャグリングショーを楽しみました♪



【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108
 特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.or.jp/>

E-mail convini@ezeru.or.jp

